

研究題目 鱗翅目データベース
 所属機関名 北九州市立自然史・歴史博物館
 代表研究者氏名 上田恭一郎

1. 研究の進捗状況、成果の現状と今後の見込み(概要)

本年度は当初の計画通り画像データベースが作成できた。また試験公開も開始された。日本産鱗翅類に関する最新の学名辞書も蝶類に関してはほぼ完成し、これらのデータを適用できる準備が整った。今後も予定通り入力件数が見込み、いくつかの新機軸を検討中である。

1-1. 当初の計画

11,000 件の画像データベースを参加 5 機関で作成する。1 件につき表面（種によっては裏面も）ラベル画像を撮影。

1-2. 上記に対し、見直した点

兵庫県立人と自然の博物館より撮影件数を増やしたいとの希望があったので、北九州市立自然史・歴史博物館の件数を 1,100 件減らして兵庫の件数をその分増加した。

1-3. 今後の見込み

計画どおり実施の見込み。

2. 作成データについて

生物分野	標本所有機関	標本所有数(概数)	データ源	表現形式	H20 年度作成データ数(日本語、英語)(予定)	H20 年度作成データ数(日本語、英語)(実績)	H21 年度作成データ数(日本語、英語)(予定)	課題終了時のデータ数(日本語、英語)(予定)
鱗翅目昆虫学・ガ類	北九州市立自然史・歴史博物館	175,000	一般標本、タイプ標本	文字、画像	日本語：4,400 件 英語：4,400 件	日本語：3,321 件 英語：3,321 件	日本語：3,300 件 英語：3,300 件	日本語：17,056 件 英語：17,056 件
	農業環境技術研究所	220,000	一般標本、タイプ標本	文字、画像	日本語：2,200 件 英語：2,200 件	日本語：2,200 件 英語：2,200 件	日本語：2,200 件 英語：2,200 件	日本語：9,886 件 英語：9,886 件
	大阪府立大学	228,000	一般標本、タイプ標本	文字、画像	日本語：2,200 件 英語：2,200 件	日本語：2,200 件 英語：2,200 件	日本語：2,200 件 英語：2,200 件	日本語：9,859 件 英語：9,859 件
	兵庫県立人と自然の博物館	200,000	一般標本、タイプ標本	文字、画像	日本語：1,100 件 英語：1,100 件	日本語：2,552 件 英語：2,552 件	日本語：2,200 件 英語：2,200 件	日本語：9,316 件 英語：9,316 件

九州大学 比較社会 文化研究 院	39,000	一般標 本、タイ プ標本	文字、 画像	日本語：1,100 件 英語：1,100 件	日本語：1,100 件 英語：1,100 件	日本語：1,100 件 英語：1,100 件	日本語：4,946 件 英語：4,946 件
---------------------------	--------	--------------------	-----------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------

3. データ項目について

文字データ：標本番号、証拠標本 ID (アクセション)、種名 (学名)、和名、地名 (産地)、標高、座標、日付 (採集年月日)、採集者、同定者、同定日付、タイプ情報、ノート。

画像：標本 (種によっては表面、裏面)、ラベル、交尾器等形態図、塩基配列。

基本的には Darwin Core2 に準拠している。

4. データのクオリティ・コントロールについて

全般的には平成 21 年 1 月 23 日開催のアドバイザー委員会にて各委員からチェックが行われた。個々の種類の学名、同定の問題が生じたときはその都度各参加研究者が対応し、それぞれの分類群の専門家に依頼した。最近の事例としては平成 20 年 12 月に昆虫学会日本産昆虫総目録 (チョウ) 作成に参画している猪又敏男、植村好延、矢後勝也といった委員にウラギンヒョウモンの種小名に *adippe* (Rottemburg, 1775)か *adippe* (Denis & Schiffermüller, 1775)のどちらを使用すべきか見解を問い、後者を用いるよう指導いただいた。

5. 課題終了後の運用について

運用体制：東大伊藤研究室のサーバーにて独自ドメイン lepimages.jp のもと運用 (現在の試験運用は <http://moth.c.u-tokyo.ac.jp:3000/>)。トップページ、内容の一部別添。

6. 他機関、学会等との連携について

各学会との連携はデータのクオリティ・コントロールにて述べたように具体的な問題を解決するため、日常的に行われ、本データベースの質的向上に寄与している。ロンドンの自然史博物館の鱗翅目関連スタッフ、同図書館、コペンハーゲン大学付属動物学博物館のスタッフからもいくつかの問題について有益な指示をいただいた。上田は3月にロンドンの自然史博物館図書館を訪れ、原記載探索を行う予定である。

7. 国内的・国際的寄与について

(単年度報告書では記載不要)

8. データ公開について

8-1. データ公開の問題点について

採集圧の高い蝶類では絶滅危惧種、レッドデータに掲載されている種類のデータ公開制限を考えると見えないといけない。これらの種のラベル情報は許可された人 (ユーザ登録項目作成) 以外は見る

ことができないようにするシステムを現データベースでは試行している。

8-2. システムの改修について

該当無し。ワーキンググループ内で作成、解決。

9. 推進体制

代表研究者	上田恭一郎、北九州市立自然史・歴史博物館、学芸担当部長 全体の総括、および日本産蝶類のデータ入力作成
参加研究者 (自機関・他機関を含む)	矢田脩 九州大学比較社会文化研究院、教授、シロチョウ科データ入力作成 広渡俊哉 大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科、准教授、小蛾類データ入力作成 吉松慎一 独立行政法人 農業環境技術研究所 農業環境インベントリーセンター、主任研究員、ヤガ類データ入力作成 橋本佳明 兵庫県立大学自然環境科学研究所／兵庫県立人と自然の博物館 系統分類研究部 准教授／主任研究員、シジミチョウ科データ入力作成
雇用等を希望する アルバイト等	アルバイト 6名（データ入力）（当初7名を予定していたが変更）
アドバイザー委員会	委員長 緒方一夫（九州大学熱帯農学研究センター教授） 委員 鶴川義宏（宮城教育大学情報処理センター教授） 委員 吉安裕（京都府立大学生命環境科学研究科教授）
ワーキンググループ	矢田脩（九州大学比較社会文化研究院、教授） 広渡俊哉（大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科、准教授） 吉松慎一（独立行政法人農業環境技術研究所 農業環境インベントリーセンター、主任研究員） 橋本佳明（兵庫県立大学自然環境科学研究所／兵庫県立人と自然の博物館 系統分類研究部 准教授／主任研究員） 神保宇嗣（東京大学大学院総合文化研究科 広域科学専攻・広域システム科学系 伊藤研究室）

10. スケジュール

	H20 年度	H21 年度	H22 年度
データ作成・入力	この期間同定、学名検討作業が行われる。		
試験公開 ※1	Lepimage (http://moth.c.u-tokyo.ac.jp:3000/)		
公開 ※1	自機関 GBIF 日本ノード(毎年度末に公開) (http://gbif.ddbj.nig.ac.jp/gbif_search/index.html)		
その他 ※2	△ 会議	システム構築、およびサーバーの取得、設置	サーバーの取得 (または 変更), 設置

※1 自機関による試験公開および公開が遅れた理由：試験公開は20年度から行っているが、システムを再構成していること、サーバをどこに置くかの問題、データ量が多いこと、および各県や市のレッドデータリストに掲載されている種類のラベルデータをどこまで公開するかなどの問題が生じたため。システムはワーキンググループで構築予定であり、現在も作業中。一般公開は21年度の7月に行う予定。